

(様式第8号)

事業報告書 (令和 2 年度)

事業名 支援が必要な子の親の会 ひまわりの会 ～城連携プロジェクト～

団体名 ひまわりの会 担当者名 岡本

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

令和2年6月19日 0900-1200

鹿田小学校ランチルーム

鹿田小支援学級、鹿田学区支援学校、鹿田こども園対象者、OB、の保護者
主任児童員、学童指導員、こども園園長、計25名

【コロナ禍の我が家】

ステイホーム中、どのように過ごしていたか。

2グループに分け、模造紙に付箋を貼って、ワークショップ形式で行った。

令和2年7月15日 1300-1430

就労支援A型事業所 ZENKO

【障がい者（児）のICT機器について】

計6名

分身ロボットOriHimeを活用し、不登校または重度身体障害者に対する意見交換。
今後、障がい者就労にICT機器を使用するの就労は可能か・・・など。

令和2年7月22日 1300-1400

県庁教育委員会

【ICT機器を使用した教育について】

計4名

分身ロボットOriHimeについて、支援学校での有効性の意見交換。

令和2年8月22日 1500-1730

逢沢事務所

【福祉の会】

福祉活動の代表。国、県、市の議員。他。

計20名

学童、こども支援、視覚障害、自閉症、福祉施設、海外支援など、代表の岡本が筆頭でコ
ロナ禍での困りごと、他活動について意見交換。

(様式第8号)

令和2年9月7日 1300-1400

国際ソロプチミスト岡山

【寄付】

計3名

使用しなくなった規格が古いノート類を10箱ほど寄付いただく。鹿田学区の学童やこども宅食など、手分けをして必要な方へ届けた。

令和2年10月23日 1030-1300

ありがとうファーム

【打合せ】

計3名

11月ひまわりの会の企画について。ありがとうファームの各店舗を視察させていただく。

令和2年11月14日 1300-1430

石山公園

【パラフェス2020】

約100名

毎年、ひまわりの会として招待をいただいている。

令和2年11月20日 0900-1200

鹿田小学校ランチルーム

鹿田小支援学級、鹿田学区支援学校、鹿田こども園対象者、OB、の保護者主任児童員、学童指導員、側建房、側ありがとうファーム、計20名

【だれひとり取り残さない家作り】

4チームに分かれ、ワークショップ形式で意見を出し合い、最後に各チームが発表する。

※添付冊子参照

令和2年11月20日 0900-1200

鹿田コミュニティハウス

鹿田小支援学級、鹿田学区支援学校、鹿田こども園対象者、OB、の保護者主任児童員、計6名

【茶話会】

今年度、活動当初のようにゆっくり相談できる場所がなかったこともあり、あえてその場を設けた。

令和2年12月2日 1030-1130

山陽学園大学

地域マネジメント学部教授、ありがとうファーム

計3名

【11月20日開催のものと同連動した意見交換】

三者、それぞれの活動紹介とSDGs連携について意見交換した。

令和2年12月3日 1300-1500

コクヨ山陽四国販売㈱

㈱建房、㈱ありがとうファーム、計5名

【11月20日開催のものと同連動したライブオフィス視察】

社長より講話を受け、意見交換した。

令和2年12月18日 1100-1200

山陽学園大学

地域マネジメント学部教授と学生、計12名

【分身ロボットオリヒメを活用した社会活動について】

学生にアイデア出しの意見を聞く。

令和2年12月26日 0900-1200 ✓

鹿田コミュニティハウス

2名

【茶話会】

令和3年1月11日 1300-1430

ありがとうファーム

5名

冊子について最終打ち合わせ等

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

障がい児育児に対して地域で支え、孤育て・孤立・虐待を防ぐ。

講師を招いて、研修・勉強会も良いが、大切なことはニーズ等の言葉に踊らされず参加人数の問題でもない。

1人でも笑顔になり帰ってくれること。

地域の方を巻き込むこと。

<p>3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)</p> <p>保護者に、悩みを共有できる仲間がいると実感してもらえた。</p> <p>年数を重ねるごとに、先輩ママは『私に大きなこと、またこのような会は出来ないけど、ここへ来て若いお母さん達に自分の経験を話したり悩みを聞いたりすることは出来る』と言って毎回参加して下さるようになった。</p> <p>自分が大変な時は『誰かが何かをしてくれるの待ち』が多いが、自らが動き他団体へ参加したり勉強したりする姿が見受けられる。</p> <p>また、協働先である小学校からの問い合わせや打合せの連絡のやり取りが増えた。</p> <p>地域の役員の方も、保護者の悩みをきいて行政機関の調整をして下さる。</p> <p>連合町内会長は年に1回程度、様子を見にきて下さる。</p> <p>地域連携について年々強くなり、地域で家庭や子どもを見守って下さるようになってきた実感がある。</p>
<p>4. 今後の課題と展望</p>
<p>今後、ESDは退会するが引き続き【ひまわりの会】の開催を続けていく。</p> <p>来年度は、教育委員会や大学と協働し研究をすすめていく。</p>



